

表-23 日本式大気安定度に基づく集約区分

基礎区分		集約区分
大気安定度	記号	
強不安定	A	A - B
	A - B	
並不安定	B	B
	B - C	
弱不安定	C	C
	C - D	
中立	D	D
弱安定	E	E
強安定	F	

ハ 代表風速

大気安定度別、風向別に平均風速を求め代表風速を設定した。

ニ 逆転層

一般に調査結果から県下（特に海岸部）において海風のとき地上300m～800m付近で逆転層が生じることが知られている。特に内陸部ほど逆転層高度が高くなる。過去に観測調査した結果を地区別・季節別にまとめると表-24のとおりである。

拡散計算においては、暖候期には上空逆転層、また夜間には接地逆転層の考慮が必要な地域がある。しかしながら上記の観測は、殆どすべて高濃度発生に都合の良い気象状況の発生が見込まれる日を選んで実施したものであり、各季節に特性化することは困難である。また、季節・時間帯別の逆転層の数量化が困難な状況であることから、今回の解析では逆転層は設定しないこととした。

観測季節 地区	春
仙塩	海岸部 日中 接地逆転 100～150m 内陸 海風時 逆転 200～500m
石巻	逆転 500m
古川	日中 海風時 逆転 300～600m
岩沼	
気仙沼	
築館	

注 昭和53年度、宮城県環境